

令和 6 年 8 月 5 日
ユースカウンスル京都

次期「京都市はぐくみプラン」に向けた、 若者団体による若者の声反映プロジェクトの実施

1 意見聴取の概要

(1) 調査の背景及び目的

令和 5 年 4 月施行のこども基本法において、年齢・発達段階に応じて、子ども・若者の意見表明機会の確保や意見の尊重が基本理念として掲げられ、また国や地方公共団体に対して、子ども・若者施策の策定にあたっては、当事者の意見反映を講ずることが義務付けられている。

京都市においては、妊娠前から子ども・若者期まで切れ目のない支援を進めるため、令和 2～6 年度の「京都市はぐくみプラン(京都市子ども・若者総合計画)」が策定されており、現在では、次期改訂へ向けた議論が、担当部局内や、有識者及び公募委員等で構成される京都市はぐくみ推進審議会を中心に行われているところである。

本取組では、次期プランの検討段階において、若者当事者やその支援者を対象に、今後の市実施に対する意見聴取を行い、京都市における若者を取り巻く環境や当事者及び支援者の声を届けることで、①次期プランへの若者等の声が実際に反映されていること、②若者等の意見反映が一過性のもので終了せず、次期プラン策定後も継続して、声を聞く・届ける仕組みがあることを目指すものである。

今回の意見聴取では、若者が日常的に利用することができ、居場所や相談、自主活動等の支援機能を持つ「青少年活動センター(市内 7 箇所に設置)」等を主な対象とし、利用する若者や日常的に若者のサポートを担うユースワーカーへの調査を行った。

(2) 取組の名称及び設定理由

名称：「若者の声反映プロジェクト ～届け!!モヤモヤくん～」

理由：市バス混雑や観光公害等の顕在化した社会課題に対する意見のみならず、若者自身の日常生活における困りごとや願望等を「モヤモヤ」として吐き出しやすくしながら、そのモヤモヤの背景や理由を確認することで、当事者(自分事)としての本音を聴取し、次期プランの検討過程における重要な視点を模索するため。

(3) 調査対象者

- ① 青少年活動センターを利用する概ね 13～30 歳の若者
- ② 青少年活動センター及び京都若者サポートステーションの職員(ユースワーカー)

(4)調査方法

①若者へのアンケート(紙・電子)及びヒアリング調査

施設ごとに館内環境や若者の利用状況(主な年齢・利用目的等)が異なるため、具体的な意見聴取の方法については、各センター及び当団体間で個別に調整を行った。

また、アンケート箱の設置のみでは、調査の意図が伝わりづらいことや、回答をするハードルが高く、回収率が低くなることが懸念されたため、各センターにおける既存事業や活動団体との連携のもと、当団体のスタッフが各センターへ出向き、回答されたアンケートを踏まえたヒアリング(意見交流)も行った。併せて、オンラインでの回答も可能とした。

本調査では、回答のハードルを下げるためアンケート用紙やチラシのデザイン・説明の記載等に配慮しつつ、単なる要望の事項の集約だけでなく、その考えに至った理由や背景等を確認しながら意見聴取を進めることに留意し、取組を進めた。

②ユースワーカーへのインタビュー調査

若者を取り巻く環境や当事者が抱えるまたは願いについて、若者を対象としたアンケートやヒアリングによって声を集めた。

一方で、アンケートへの回答の文面だけでは、主訴(モヤモヤ)にある背景やその理由の把握が実際に困難であった。また、その場限りの意見聴取の機会では顕在化しづらい若者のニーズがあることや、調査期間中に青少年活動センターへの利用がないなど、様々な要因からアンケート等による意見表明が困難(あるいは表明しても意味がない)という者が存在することは容易に予想された。

そこで、同センターや京都若者サポートステーションにおいて、日常的に若者サポートを担う職員(ユースワーカー)へのインタビュー調査を行い、若者からの回答等だけでは見えづらい当事者の現状や、支援者としての立場から見た、困難さに対する意見について個別に聴取した。

③参加型ワークショップ

ワークショップ開催の目的は2点ある。1点目は、参加同士の意見交流を生みながら、若者が抱える悩みや願い、その背景等についてより深くヒアリングすることが可能であること。2点目は、若者の意見反映の意義や、先行研究等を踏まえた取組のポイント等について共有を行った上で、京都市における今後の仕組みの在り方を検討することである。

ワークショップを通して、他の参加者の意見を聴いて考えが深まったり、広がったりしたことで自身の意見を言うことができた。プランや市政への関心が強くなった、という声が多く聞かれ、活発に議論が広げられている様子が見られた。

企画名：「子ども・若者の声が届く仕組みについて考えよう！

～語ろう!!モヤモヤくん～」

日時：令和6年6月23日(日)午後2時～午後4時45分

場所：京都市中央青少年活動センター 和室

(中央区東洞院通六角下る御射山町 262)

内容：①全体会(企画趣旨、はぐくみプラン及び意見反映の意義の説明等)

②アイスブレイク

③グループワーク 1(テーマ別)

テーマ：「学校生活」「第三の居場所」

「進路・ライフデザイン、子ども・若者が抱える困難さ」

④声を届ける仕組みに関する事例紹介(京都市・こども家庭庁・他地方自治体等)

⑤グループワーク 2(テーマ共通)

テーマ：「子ども・若者の声が届く仕組みって？」

⑥クロージング

(5)回答数

①若者へのアンケート(紙・電子)及びヒアリング調査

総計 783 件(うち投書 687 件、オンライン 96 件)

②ユースワーカーへのインタビュー調査

計 16 名

③参加型ワークショップ

計 13 名

2 京都市長への報告書構成案

第1章 取組の背景及び方法

1. 聴取団体概要

2. 意見聴取の概要

第2章 若者を取り巻く環境

1. 若者当事者からの声

2. ユースワーカーから見る当事者の現状

第3章 調査を踏まえた若者施策の重要な視点

第4章 若者の意見反映に向けた仕組みづくり(若者当事者)

第5章 おわりに

1. 取組を踏まえた所感

2. 次期「京都市はぐくみプラン」への期待